

ルカの福音書 44回

ペテロの信仰告白

ルカ9:18~27

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスのガリラヤ地方での奉仕(ルカ4:14~9:50)
- ②ルカ9:1~50は、そのクライマックスである。
- ③エルサレムへの旅(ルカ9:51~19:10)へのブリッジである。
- ④ルカ9:1~50の中心テーマは、弟子訓練である。

*教会時代への準備が始まる。

(2) ルカ9:1~27の内容

- ①12人の派遣(1~6節)
- ②挿入句的エピソード(ヘロデの心理状態)(7~9節)
- ③12人の帰還(10~17節)
- ④ペテロの信仰告白(18~27節)

*ルカだけが、5000人の給食の直後に、ペテロの信仰告白を置いている。

*イエスが誰かということ強調するためである。

2. アウトライン

- (1) ペテロの信仰告白(18~20節)
- (2) イエスによる受難の予告(21~22節)
- (3) 弟子が負う十字架(23~27節)

3. 結論:ルカ9:27の「神の国を見る」の意味

ペテロの信仰告白とそれに続くイエスの教えについて学ぶ。

I. ペテロの信仰告白(18~20節)

1. 18~19節

Luk 9:18 さて、イエスが一人で祈っておられたとき、弟子たちも一緒にいた。イエスは彼らにお尋ねになった。「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか。」

Luk 9:19 彼らは答えた。「バプテスマのヨハネだと言っています。エリヤだと言う人たち、昔の預言者の一人が生き返ったのだと言う人たちもいます。」

- (1) ルカは、他の福音記者たちが記録している多くの情報を省略している。

- ①このことが起った場所はピリポ・カイザリヤであるが、その情報は出て来ない。
- ②ルカの視点からすると、場所に関する情報は重要なものではない。
- ③「この人は、いったい誰なのだろうか」という質問は重要である。
 - *ヘロデは、直接的にこの質問をした。
 - *群衆は、パンを食べながら間接的にこの質問をした。
- ④この質問への回答が、ペテロの信仰告白である。
- ⑤イエスを誰だと考えるかによって、私たちの生き方は変わってくる。

(2) 「イエスが一人で祈っておられたとき」

- ①ルカだけがこれを書いている。
- ②イエスは、父なる神に絶対的な信頼を置いていた。
- ③ルカ9:16

Luk 9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。

- ④5000人の給食も、ペテロの信仰告白も、祈りに対する答えである。
- ⑤ここでは、イエスは弟子たちが正しい信仰に導かれるように祈られた。

(3) 「群衆はわたしのことをだれだと言っていますか」

- ①群衆とは、まだ態度を決めていない人々である。
- ②「群衆は自分が果たしている役割をどう評価しているのか」という質問である。

(4) 弟子たちの答えは、すでにルカ9:7~8に出ていた内容である。

- ①バプテスマのヨハネ
- ②エリヤ
- ③昔の預言者の一人が生き返った。

2. 20節

Luk 9:20 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」

(1) 「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか」

- ①イエスは、同じ質問を弟子たちに向けた。

(2) ペテロは弟子集団を代表して、「神のキリストです」と答えた。

- ①「神のキリスト」とは、神から送られたメシアという意味である。
- ②ペテロは、イエスが偉大な預言者であるという理解を否定した。

*イスラムの教理では、イエスは偉大な預言者である。

③ペテロは、イエスが旧約聖書で約束されたメシアであることを信じた。

④当時のユダヤ人が持っていたメシア像

*メシアはダビデの子孫である。

*ローマの支配を打ち破り、地上に神の国を建設する。

*メシアを神とは考えない。

(3) マタ 16 : 15~16

Mat 16:15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」

Mat 16:16 シモン・ペテロが答えた。「あなたは生ける神の子キリストです。」

①「生ける神の子」は、イエスの神性を示すことばである。

②ペテロは、イエスの神性を信じた。

③ルカは、「生ける神の子」ということばを省略した。

*異邦人は、「キリスト」ということばは神性を示していると理解していた。

*異邦人の読者は、ペテロの告白はイエスの神性を認めたものだとして理解した。

II. イエスによる受難の予告 (21~22節)

1. 21節

Luk 9:21 するとイエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じられた。

(1) イエスは、このことを誰にも話さないように弟子たちに命じた。

①群衆が騒ぎ立てると、今後の奉仕に支障が出る。

②時が来たなら、イエスはご自身がこのことを明らかにされる。

③勝利の入城の時が、それである。

2. 22節

Luk 9:22 そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たち、祭司長たち、律法学者たちに捨てられ、殺され、三日目によみがえらなければならない、と語られた。

(1) ルカは、いくつかの重要な情報を省いている。

①教会設立の預言

②ペテロがイエスをいさめた出来事

③イエスがペテロを叱責した出来事

④ルカは、受難の予告に焦点を合わせるために、それ以外の情報を省略している。

(2) これは、イエスが語った最初の受難の予告である。

①メシアの受難は、弟子訓練のための重要なテーマである。

*指導者たちに捨てられる。

*殺される。

*3日目によみがえる。

②イエスによる受難の予告は、毎回、復活の希望で終わる。

③弟子たちは、毎回、この予告を理解することができない。

(3)「人の子」というタイトル

①ダニ7:13~14

Dan 7:13 私がまた、夜の幻を見ていると、／見よ、人の子のような方が／天の雲とともに来られた。／その方は『年を経た方』のもとに進み、／その前に導かれた。

Dan 7:14 この方に、主権と栄誉と国が与えられ、／諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、／この方に仕えることになった。／その主権は永遠の主権で、／過ぎ去ることがなく、／その国は滅びることがない。

②人の子は、世界を統治する方である。

③イエスは、殺されるが、復活して世界を統治するようになる。

④弟子たちは、そのようなことが起るとは信じられなかった。

Ⅲ. 弟子が負う十字架 (23~27 節)

1. 23 節

Luk 9:23 イエスは皆に言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。

(1) 次にイエスは、イエスの弟子たちが経験する苦難について教える。

①「わたしについて来たいと思うなら」とは、弟子になりたいならという意味。

②「自分を捨て」とは、物を捨てるよりも根本的な自我の否定である。

*自分の栄光ではなく、神の栄光を求める姿勢

③「自分の十字架を負って」とは、弟子として受ける非難を甘受することである。

④信者には、未信者にはない重荷が与えられている。

⑤イエスの弟子には、イエスのライフスタイルに倣って生きることが求められる。

2. 24~26 節

Luk 9:24 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを救うのです。

Luk 9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるでしょうか。

Luk 9:26 だれでも、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いの栄光を帯びてやって来るとき、その人を恥じます。

- (1) 信者には2つの選択肢が与えられている。
 - ①自分の栄光を求めて生きる道。その者は、人生の意味を見失う。
 - ②神の栄光を求めて生きる道。その者は、人生の本当の意味を見いだす。

- (2) 献身を妨害する最大の要因は、物欲である。
 - ①全世界を手に入れるとは、物質的に富むことである。
 - ②そうなったとしても、本当の人生を味わっていないなら、なんの益もない。

- (3) 今の状況と将来の状況を対比させる。
 - ①信者には、現世においてキリストと神のことばを恥じる可能性がある。
 - *この世から受け入れられないことを、恥ずかしく思う。
 - ②キリストは、栄光の姿で再臨されるとき、そのような人を恥じる。
 - *来たるべき世においては、より大きな恥を受けることになる。

3. 27節

Luk 9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

- (1) 「神の国を見るまでは、決して死を味わわない人たちがいます」
 - ①これは、ペテロとヨハネとヤコブのことである。
 - ②次に続くのは、変貌山の出来事である。
 - ③変貌山では、神の国の予兆が現れた。

結論：ルカ9:27の「神の国を見る」の意味

Luk 9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

1. 復活を見る。

- (1) イスカリオテのユダを除いた全員が、復活のイエスに出会っている。
- (2) それゆえ、この可能性はない。

2. ペンテコステを見る。

- (1) 使徒たち全員が、ペンテコステの出来事を体験している。
- (2) それゆえ、この可能性はない。
- (3) そもそもペンテコステは、メシア的王国の始まりではない。

3. エルサレムの崩壊を見る。

(1) エルサレムの崩壊は、メシア的王国をもたらしたわけではない。

(2) それゆえ、この可能性はない。

4. **メシア的王国そのものが始まるのを見る。**

(1) 使徒たちが生きている間に、メシア的王国が始まったわけではない。

(2) それゆえ、この可能性はない。

5. **神の国を見るときは、イエスを信じることである。**

(1) 見ない人たちは、イエスを信じない人たちである。

(2) 文脈上、不信者は含まれていないので、この可能性はない。

6. **栄光のイエスを見る。**

(1) 変貌山の出来事は、メシア的王国の予兆であり、前味である。

(2) それを目撃するのは、たった3人である。

(3) それ以外の弟子たちは、神の国を見る前に死ぬということが暗示されている。

(4) イエスは、神の国の成就が延期されたことを示しておられる。

(5) 神の国（メシア的王国）の重要性を理解しないと、終末論は整理されない。

(6) 弟子たちが期待した神の国は、再臨のメシアによって地上に成就する。